

財団法人 日本中毒情報センター 保健師・薬剤師・看護師向け中毒情報

ピレスロイド系殺虫剤スプレー（家庭用）

[概要]

ハエ、蚊、ゴキブリやダニの駆除に用いられるエアゾル式家庭用殺虫剤。有効成分はピレスロイド系（フタルスリン、アレスリン、d-T80-レスメトリン）で、噴射剤（LPG、ジメチルエーテル）と石油系溶剤が含有されている。また、共力剤としてピペロニルブトキサイドを含有するものもある。

[毒性]

製品として、ラット、マウスでの経口 LD50 が 10mL/kg 以上のものが多い

ピレスロイド剤として：ヒト経口推定致死量 10～100g(1)

フタルスリン：マウス経口 LD50 1,920～2,000mg/kg

アレスリン：マウス経口 LD50 370mg/kg(2)、

ラット経口 LD50 860mg/kg(2)

d-T80-レスメトリン：マウス経口 LD50 435～460mg/kg

ピペロニルブトキサイド：ヒト経口推定致死量 5～15g/kg(5)

[症状]

通常、大量でない限り重篤な中毒は起こりにくい。ただし、量に関わらず
気管へ誤嚥した場合、石油系溶剤により化学性肺炎を発症する可能性あり
大量摂取では、嘔気、嘔吐、下痢、口唇・舌のしびれ感、めまい、顔面蒼白、
痙攣

大量の吸入により、くしゃみ、鼻炎、咳嗽、悪心、頭痛、耳なり、昏睡
過敏症者では、皮膚炎、アナフィラキシーショック
皮膚付着（多量かつ長時間）で石油系溶剤によるかぶれ

[処置]

家庭で可能な処置

少量の場合、口をゆすがせ様子を見る

皮膚接触時：水と石鹼で十分に洗浄、ステロイド軟膏の塗布

医療機関での処置

大量摂取した場合

基本的処置（胃洗浄、吸着剤と塩類下剤の投与など）

対症療法：痙攣対策（ジアゼパム、フェニトイン、フェノバルビタール）

呼吸抑制の場合、必要に応じて酸素投与、人工呼吸

[確認事項]

患者の状態：嘔吐の有無。咳込んでいたり、苦しそうな呼吸をしていないか

[情報提供時の要点]

- 1) 咳込んだり、苦しそうな呼吸をしている場合、気管へ誤嚥している可能性がある
あるので直ちに受診を指示
- 2) 嘔吐時に気管へ誤嚥することが多いので、嘔吐した場合、直ちに医療機関
への受診を指示
- 3) なめた程度なら家庭で様子を見てさしつかえなし

[体内動態]

ピレスロイド剤として

吸収：速やかに吸収・・・ラットでは、摂取 30 分～1 時間半後に脳で最高血中濃度を示し、症状発現をみたとの報告あり(3)

分布：あらゆる組織に分布。哺乳類では、エステル分解と酸化が速やかに行われるので低毒性を示す(3)

[中毒学的薬理作用]

ピレスロイド剤として

哺乳類に対する毒作用機序は不明だが、中枢神経刺激作用と痙攣誘発作用あり(4)

[治療上の注意点]

- 1) 気管へ誤嚥した場合、殺虫剤に含有されている石油系溶剤による化学性肺炎を発症する可能性があるため、胃洗浄の施行時には注意が必要
- 2) アレルギー作用による呼吸障害は、一般に抗ヒスタミン剤の投与で対処できるが、重篤な場合はエピネフリンで対処
- 3) 診断、予後判定に有効な検査はない。血中濃度測定も臨床上有用ではない

[商品名]

CO・OP 生協殺虫エアゾール S、エトック S エアゾール、カメ虫用ジェット、キンチョール、キンチョール U、ケムシキンチョール、ゴキブリ退治ヘキサチン PII、ゴキブリフマキラー、コックローチ S、大正ゴキブリゾル S、大正殺虫ゾル、大正殺虫ゾル F、大正ダニ殺しゾル、大正ダニスプレー、ダニアース E、ダニキンチョール、ダニフマキラー、ダンゴムシダウンスプレー、トータルキラー・レイドエクストラ S、ニューキスカ F-1、ニューキスカ G-2、ハチ・デストン、バラギク殺虫剤、バルサン C エアゾール、フマキラー A、フマキラー As、ヘキサチン AII、虫コロリエアゾール、床下アース、ワラジ虫ゾル、わる虫退治ジェット

[参考文献]

- (1) 農薬中毒 (1984)
- (2) RTECS (1997)
- (3) Poisindex (1989)
- (4) Clinical Toxicology of Commercial Products (1984)
- (5) 家庭用化学薬品の知識 (1982)

[作成日]

19900215 Ver.1.00
ID M70219_0100_2